令和7年度　第1回
宇都宮市デジタル共創懇談会

【議事概要】
　令和7年度における宇都宮市のDXに関する取組及び令和8年度における取組のイメージをご報告した上で，宇都宮市デジタル共創未来都市ビジョンの実現に向けて，各団体と意見交換を行うもの

令和8年2月26日

次第

宇都宮市 Utsunomiya City

１　開会

２　議　事

（1）報告事項

　　ア　令和7年度における宇都宮市の取組

　　イ　令和8年度における取組のイメージ

（2）宇都宮市デジタル共創未来都市ビジョンの実現に向けた意見交換

３　その他

４　閉会

本日の意見交換のテーマについて

宇都宮市 Utsunomiya City

➢ ご所属の団体に関連深いものに関する今後の取組や課題についてのご発言をいただきたい。

【意見交換のテーマの例】

①高齢者や情報弱者へのデジタル活用支援	②DX人材育成	③AIの利活用	④課題解決に向けたシステムツールの導入	⑤その他

- ご所属の団体に関連深いものに関する今後の取組や課題についてご発言をいただきたい。

■ いただいたご意見・意見交換の結果の取扱いについて

- 「宇都宮市デジタル共創未来都市ビジョン」への参考とさせていただきます。
- 本懇談会の議事録作成に当たって，ご意見内容や発言者名の記載可否を事前に確認させていただき，了承を得た範囲で市ホームページ等に公開します。

宇都宮市デジタル共創懇談会　委員名簿

宇都宮市 Utsunomiya City

分野	団体名	役職	委員名	出欠予定	備考
医療・福祉	一般社団法人　宇都宮市医師会	理事	天谷　健二	出席	
	一般社団法人　宇都宮市歯科医師会	専務理事	半田　功	欠席	
	社会福祉法人　宇都宮市社会福祉協議会	常務理事兼事務局長	梓澤　昌徳	出席	委員変更
産業	宇都宮商工会議所	地域振興部長	中島　寿典	出席	
	公益財団法人　栃木県産業振興センター	専務理事	篠原　良一	出席	
	一般社団法人　栃木県情報サービス産業協会	副会長（人材育成委員会　担当）	秋間　忍	出席	
	(株)farmo	代表取締役	永井　洋志	出席	
市民団体	シニア生まれ変わりPJ　会いてぃ(IT)なかまの会	会長	藍原　安吉	出席	
	栃木県消費生活リーダー連絡協議会　宇都宮支部	会長/宇都宮支部長	熊倉　シゲ子	出席	
環境	宇都宮ライトパワー株式会社	取締役	宮崎　悠	欠席	
	NPO法人うつのみや環境行動フォーラム	理事	増渕　弘子	出席	
文化・芸術	公益財団法人うつのみや文化創造財団	常務理事　兼　事務局長	笹野　賢治	欠席	委員変更
学識経験者	国立大学法人　宇都宮大学	名誉教授	永井　明	出席	会長
メディア	株式会社　下野新聞社	編集局デジタル報道部　部長	桐生　典夫	出席	
通信事業者	NTT東日本　株式会社	副支店長	松川　智久	出席	
シンクタンク	株式会社　あしぎん総合研究所	ITソリューション部長	鈴木　勉	欠席	

宇都宮市デジタル共創懇談会　事務局

宇都宮市 Utsunomiya City

No.	所属・職名	氏名
1	CDXO補佐官	井出　昌浩
2	総合政策部　副参事（スーパースマートシティ・共創担当）	早川　光夫
3	総合政策部デジタル政策課　課長	高橋　善行
4	総合政策部デジタル政策課　主幹（デジタル活用担当）	吉野　清史
5	総合政策部デジタル政策課　主幹（システム最適化担当）	大久保　吉朗
6	総合政策部デジタル政策課　課長補佐	渡邉　敏矢
7	総合政策部デジタル政策課　デジタル戦略グループ　係長	戸上　和明
8	総合政策部デジタル政策課　デジタル戦略グループ　総括	石田　貴巳
9	総合政策部デジタル政策課　デジタル活用グループ　係長	川島　友美
10	総合政策部デジタル政策課　デジタル活用グループ　係長	柱本　周作
11	総合政策部デジタル政策課　システム管理グループ　係長	菅原　秀明

宇都宮市
Utsunomiya City

⑴報告事項

ア　令和7年度における宇都宮市の取組

【行政DX】

1. DX人材育成
2. AI利活用

【地域DX】

3. デジタルデバイド対策
4. 企業向けセミナー

1. DX人材育成

DX力の高さ

高度専門人材

ＤＸ人材
【対象者】
ＤＸを主導する職員

【対象者】
ＤＸを実行する職員

ＤＸ人材候補者
【対象者】
デジタル分野に感度の高い職員

全職員

【高度専門人材の確保】
民間の専門人材を「CDXO補佐官」「DX専門官」（特別職非常勤職員）として任用

【市職員をDX人材に育成】

- 令和6年3月に「DX人材育成プラン」を策定
- 「DX実現タスク」の「庁内DX人材の育成・確保」に係る取組を具体化するために，全職員が身に付けるべきスキルや高度なスキルを有する人材の育成に向けたロードマップなどを明確化



庁内ＤＸの核となる人材が課内で活躍するとともに，管理職も責任を持ってバックアップの上，各課内で解決できる仕組みが存在

市民生活や職員の働き方の向上に繋がるDXが更に加速

1. DX人材育成

宇都宮市 Utsunomiya City

DX力の高さ

高度専門人材

ＤＸ人材
【対象者】
ＤＸを主導する職員

【対象者】
ＤＸを実行する職員

ＤＸ人材候補者
【対象者】
デジタル分野に感度の高い職員

全職員

旧KPI

ローコード・ノーコード開発ができる職員数（人）

R9目標:300人　のところ
R6末:372　進捗率:124%

前倒しでの達成に伴い，KPIを見直し

新KPI

DXを実行する職員※
＝1，000人（R9年度末）



庁内ＤＸの核となる人材が課内で活躍するとともに，管理職も責任を持ってバックアップの上，各課内で解決できる仕組みが存在

市民生活や職員の働き方の向上に繋がるDXが更に加速

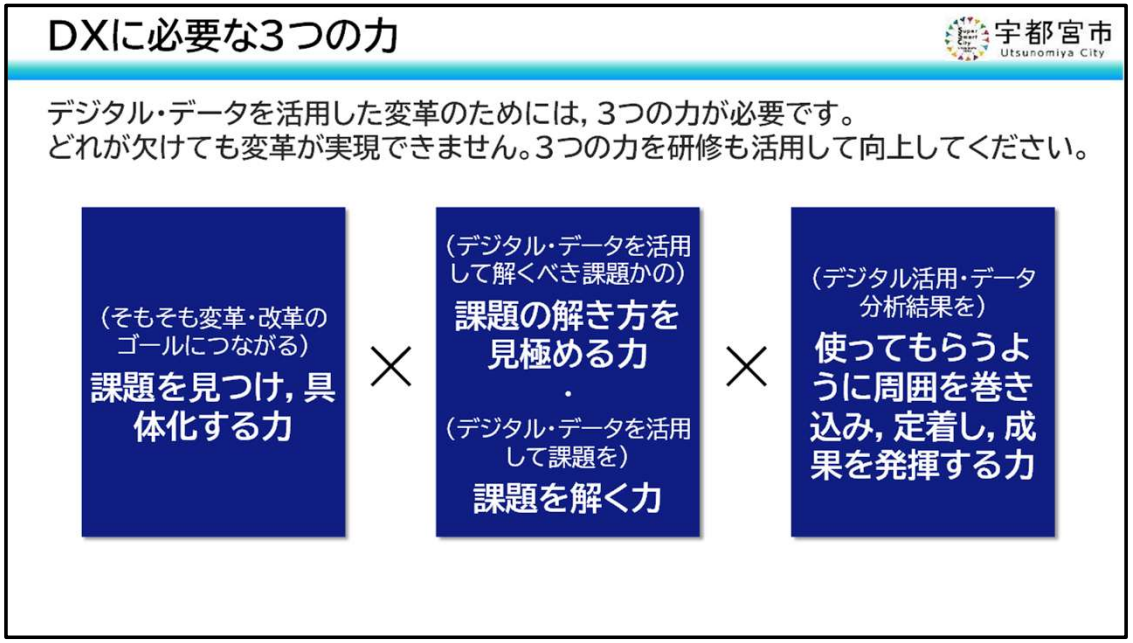
※DXを実行する職員：ITパスポート試験合格などの要件を満たした職員

1. DX人材育成

宇都宮市 Utsunomiya City

DXを実行する職員育成研修（令和7年6月4日～）
・管理監督職：186名/1,231名，一般職：242名/2,193名を対象に実施
⇒全職員のうち1割以上の職員が「DXを実行する職員」を目指して研修を受講
⇒R7～の3年間で1，000人（全職員の約1/3）の職員が「DXを実行する職員」を目指す。





1. DX人材育成

宇都宮市 Utsunomiya City

令和7年度における研修プログラム

実施日	内容
6月　4日	井出CDXO補佐官による「DX導入説明会」開催
20日	eラーニング研修「JLIS 自治体DX入門」開始
8月　6日	下山DX専門官による「ITパスポート試験合格に向けた説明会」開催
27日	リモートラーニング「JLIS デジタルリテラシー（ITパスポート対応）」開始
2月13日	川口DX専門官による業務接続研修



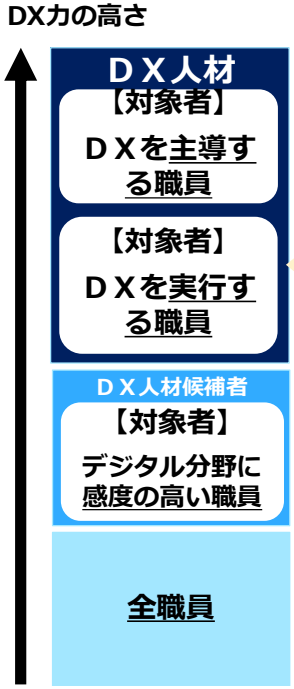
下山DX専門官による
「ITパスポート試験合格に向けた説明会」

1. DX人材育成

宇都宮市 Utsunomiya City

「DX人材育成補助金」の創設（R7.1～）

・学習意欲の向上
　試験合格という目標が設定されることで，学習意欲を喚起することができ，知識・スキル習得が促進される。
・知識のばらつきの抑制
　令和9年度においては，各課に1人以上のDX人材が配置され，DX推進の中心的な役割を担うことが想定される。その際に，共通言語があることで，職員間や外部の事業者等と円滑にコミュニケーションが取れ，より一層，DXの実現が図られる。
・客観的な知識の証明（スキルの可視化）
　DX人材育成の指標として活用することができ，対外的にも客観性をもって説明することが可能になる。



スキル	学習項目の内容
ICT応用	✓デジタル機器を使いこなすのに必要な知識（ITパスポートと同等以上）やDXを見据えた技能（ファシリテートスキル等）など実務的なデジタルスキルを習得している。

補助対象試験	ITパスポート試験を始めとした情報系の資格試験（(独)情報処理推進機構が実施する資格試験）
補助対象者	宇都宮市職員で上記試験に合格した者
補助額	受験手数料全額（7，500円）

まずは，ITパスポート試験の合格を促し，より上位の試験についても，支援を行っていく

1. DX人材育成

宇都宮市
Utsunomiya City

機運醸成に向けた「合格体験記」の発信⇒毎週全庁掲示板で掲載



情報系資格試験
合格体験記

宇都宮市

ITパスポート試験合格

■ 受験目的
・デジタル部門の課長経験者として，また，子ども部の職員の受験を促すために取得したかった。
・自身の知識習得のため。

■ 受験期間
・２か月程度。
・平日は１～２時間程度，土日は時間を見つけては集中的に学習した。
計１００時間程度の学習。
・合格点は６割だが，少なくとも他の試験で優遇される７５０点以上，８割合格を目指して上記の学習時間を確保した。

■ 学習方法
・市販のテキストとスマホアプリで学習した。
・普段はスマホアプリを活用して隙間時間に過去問を解き，テキストは試験の１週間前までに２周読み込み，直前の1週間は誤の中の知識を体系化する意識でもう１周読み込んだ。

■ 難易度
・ストラテジ分野，マネジメント分野，テクノロジ分野ともに勉強をすれば難しくはないと思う。ただし，よく簡単といわれるが，勉強をしなければ痛い目にあうと思う。
・模擬言語だけは難しいので周到な準備が必要。

■ 実用性
・ＤＸ全体を効果的に学ぶことができ，理解が深まる。
・組織経営・施設事業マネジメントの基本的な知識が習得でき，今の仕事に大いに役立っている。

■ 感想
・「令和の当たり前」と言われるＩＴパスポートを目標とする点数で取得できて素直にうれしかった。
・受験前は不安や緊張があったが，合格の暁は大きな達成感を得ることができた。
・学習意欲やチャレンジ精神がよみがえった。

■ 職員に期待すること
・試験に挑戦し，合格することで達成感や自信をつけて，学ぶことの大切さを実感してほしい。
・積極的に資格を取得して日頃の仕事に大いに役立ててほしい。

子ども部　高橋部長

ITパスポート試験合格

■ 受験目的
・ITパスポートの取組は昨年度に決まっており，デジタル政策課に異動となって先導する立場として急いで取得した。
・ＤＸを推進していく中，仕事に直結するとともに，自身の知識習得のためにもなると考えた。

■ 受験期間
・ちょうど１か月。
・平日は１時間程度，土日は時間が取れた日は４時間程度，計５０時間程度の学習。
・合格(６割正解)だけを目指すなら学習時間は少なくてもよかったが，体系的な知識習得のため時間をかけた。

■ 学習方法
・市販のテキストを購入し，１周目・流し読み，２周目・覚えていないところをマーカー，３周目・マーカーを中心に復習。
・過去問道場で，５年分の過去問を解いた。
・過去問解くだけで合格する人もいるので，学習方法は人によって差があると感じた。

■ 難易度
・勉強したことがそのままテストに生かされる。また，回答は４択・配述無し，６割正解で合格なので，そこまでハードルは高くない。テキスト学習後は過去問で８～９割は取れていた。

■ 実用性
・内容としては，半分は企業経営やマネジメントについてであり，管理監督業は特に役立つ。
・それでいて基礎的なデジタル知識も活用できる。
・外部事業者との共通言語が身につく。

■ 感想
・試験勉強をすることが久しぶりで，期間中は充実した生活を送ることができた。
・試験や点数次第では製造部を見返え，良い経験になった。
・今年度（早い段階）の取得であれば，周りから賞賛されるのでお勧め。数年後は当たり前のものになる。

デジタル政策課　高橋課長

■ 難易度
・簡単であるとの評判が多いが，自分としては難しかった。
・本番試験では，市販テキストにはない問題が複数出題され，戸惑いました。

■ 実用性
・普段の業務と結びつく内容であり，民間企業のとのやり取りでも使う実用性のある内容でした。

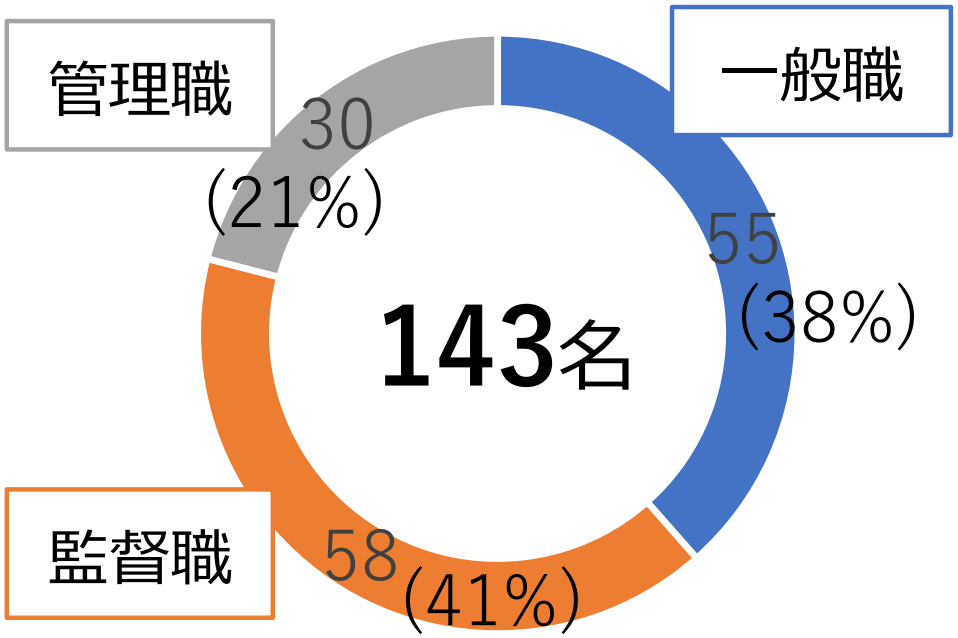
■ 感想
・同時に受験した方を見渡すと，年齢層，性別，服装等が多岐にわたり，和気な雰囲気での試験でありました。
・大学１年の息子に資格について聞くと，「知っている，就職が内定すると企業から取得を指示される資格」との認識であり，大学生にも認知されている有力な資格であると感じました。
・どんな試験でも「合格」は良いものです。

予防課　高松係長

1. DX人材育成

宇都宮市 Utsunomiya City

KPI 達成者(職位別)



現在143名達成

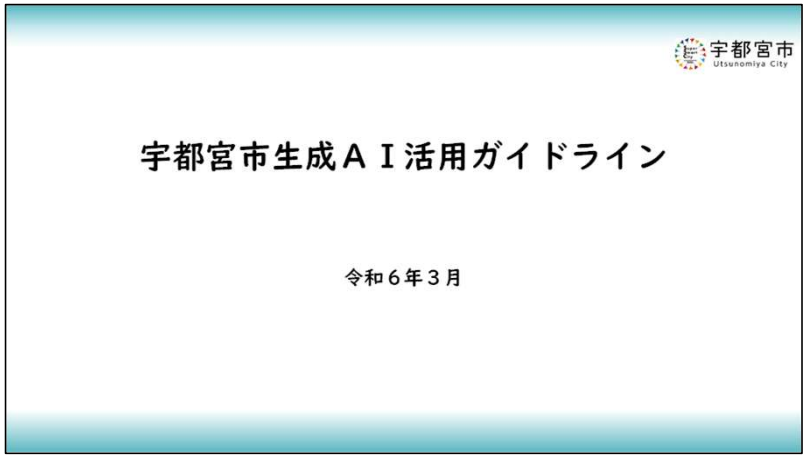
(ITパスポート試験等**合格済**)

※令和8年1月末時点

2. AI利活用

宇都宮市 Utsunomiya City

○令和6年3月「生成AI活用ガイドライン」の策定　⇒全庁で本格活用を開始



【策定の目的】
本ガイドラインは，職員が業務でChatGPTなどの生成AIを活用し，業務の効率化や市民サービスの向上を図る上での注意すべき事項を解説したもの
⇒初めて利用する場合でも，より良い回答が得られるよう，業務に直結する活用事例を掲載

【構成】
⑴生成AIについて

⑵心構え
職員の生成AI活用スキルの向上を図るためにも，積極的に利用すること。ただし，生成された文章を公文書として活用する場合は，市としての考え（判断）を込めること

⑶注意事項（ポイント）
・機密性が高い情報の入力禁止
・権利侵害等がないかの確認
・生成物の根拠等の確認
・生成物は原則そのまま利用しないこと
（そのまま利用する場合，その旨を明記）
・作成した文書の責任は自分自身（市）に

あいさつ文や議会答弁など，対外的な文書の作成に当たっては，生成物をそのまま利用することなく，情報収集などに活用し，職員自らが考え，方向性の判断を行うこと

⑷活用事例

2. AI利活用

幹部向け生成AI研修（R6.4）



職員向け生成AI研修（R6.5～）



2. AI利活用

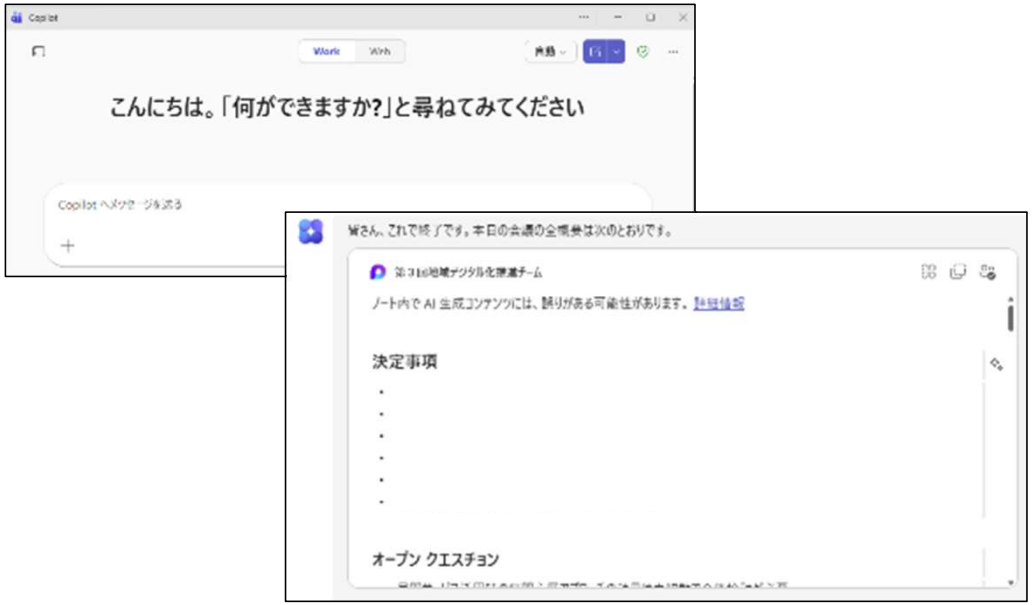
宇都宮市
Utsunomiya City

Copilotワークショップ（R7.8）





Copilotを含むM365実証（R8.1～）



⇒生成AI単体で利用するだけではなく，業務データ（メール・会議・チャット・文書など）と連携させ，さらなる業務の高度化・効率化を図る実証を開始

2. AI利活用

宇都宮市 Utsunomiya City

幹部向けAIエージェント講話（R7.4）



上下水道局AIエージェント勉強会（R7.5）



⇒業務特化型で自律処理が可能な「AIエージェント」の活用可能性についても，調査・研究を継続して実施

3. デジタルデバイド対策

宇都宮市
Utsunomiya City

R5～「宮デジサポーター」養成講座を開始（R9目標：120名の養成）

スマートフォンの操作方法等を教える地域のボランティア

「宮デジサポーター」



宇都宮市では，高齢者等のデジタルに不慣れな方が，身近な場所で相談でき，地域で支え合う仕組みとして，スマートフォンの操作方法等を教える地域のボランティア「宮デジサポーター」を養成しています。
「宮デジサポーター」は，ご自身のできる範囲（得意な分野や活動可能な地域など）で，身の回りのデジタルに不慣れな方からの相談対応や，自主的な勉強会の開催などに取り組んでいます。

宮デジサポーターは，
それぞれの「得意」を生かして
地域で活躍中！

宮デジサポーターの活動イメージ

身の回りの高齢者からの相談対応



団体活動の際に、小規模な勉強会を開催



市が主催するスマホ講座等の講師や補助員として協力



3. デジタルデバイド対策

宇都宮市 Utsunomiya City

令和7年11月現在，120名を宮デジサポーターとして認定（KPIを前倒しで達成）
⇒　毎年度多数のご応募をいただいていることから，令和8年度においても，引き続き宮デジサポーター講座を実施していく予定

宮デジサポーターの属性等
- 居住地区以外で活動するサポーターも多く，市内全域からのスマートフォン教室開催等の要望に応えている。
- 地域活動団体等に所属していない方も多い。

宮デジサポーターの所属団体→
（複数回答可）

所属団体	人数
自治会	34人
NPO法人	16人
社会福祉協議会	5人
まちづくり協議会	5人
民生委員・児童委員	4人
老人クラブ	3人
その他	15人
無所属	45人

3. デジタルデバイド対策

宇都宮市 Utsunomiya City

宮デジサポーターが120名となった節目を記念し，宮デジサポーターの日頃の活動に感謝を込めた「宮デジ感謝祭」を開催

【プログラム】
- これまでの活動の振り返り
- 地域の方からのメッセージ紹介
- 感謝状贈呈式
- 講演会
  （講師：藍原安吉氏）
- 交流の時間
  （レクリエーション・フリートーク）



▲当日の様子
宮デジサポーター43名が出席しました

3. デジタルデバイド対策

地域団体からの依頼を受けるなど，地域での活動が広がっている。

事例1　河内地区社会福祉協議会
ほのぼのスマホ教室



概　要

参加者：定員20名/各回
内　容：6月から毎月1回スマホ教室を実施

宮デジサポーターの役割

講師，補助員

3. デジタルデバイド対策

地域団体からの依頼を受けるなど，地域での活動が広がっている。

事例2　みんなの保健室　スマホ教室



概　要

参加者：サロン「みんなの保健室」
　　利用者10名程度
内　容：LINEの使い方　　など

宮デジサポーターの役割

講師，補助員

3. デジタルデバイド対策

宇都宮市 Utsunomiya City

①令和7年4月から令和8年1月の活動実績

活動形態	報告件数	支援人数
スマホ勉強会の開催や講師，他の宮デジサポーターが開催する勉強会の補助員	123	746
市が主催するスマホ講座等の講師や補助員として協力	39	312
身の周りの高齢者等からの相談対応	17	28
その他デジタル機器・サービスに不慣れな方等に対する支援活動	43	131
総計	222	1,217

②令和7年4月から令和8年1月の主な支援内容

支援内容	報告件数
基本操作・設定	123
LINE	115
カメラ	60
インターネット	52

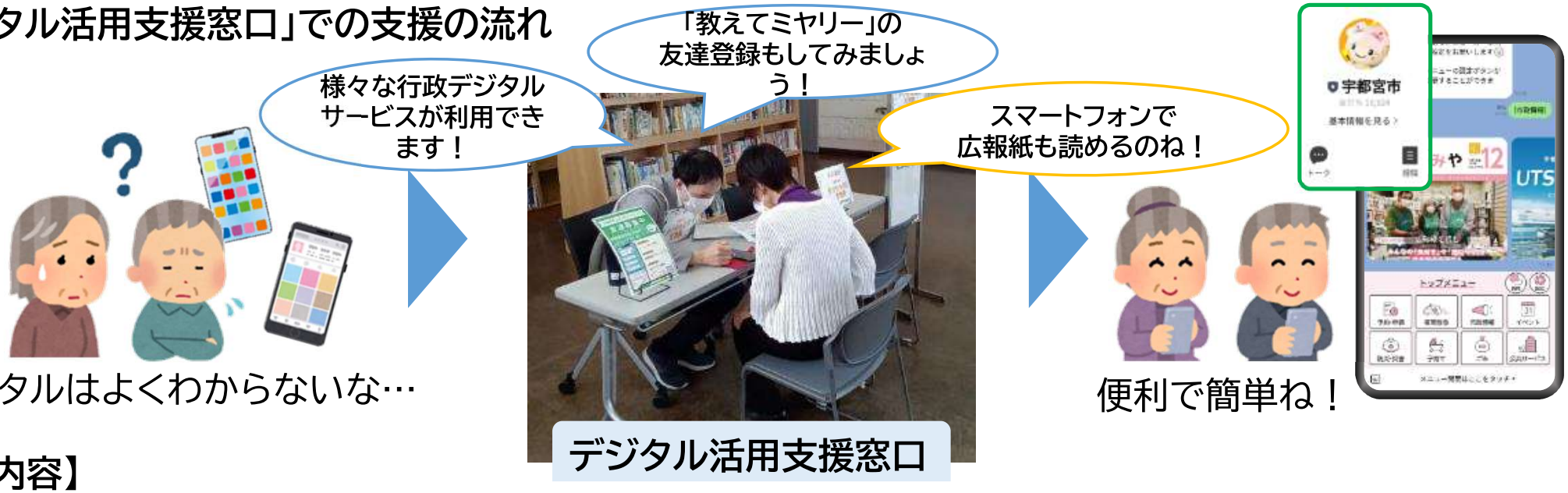
⇒勉強会の講師・補助員や身の回りの方への相談対応など，さまざまな手法で支援を実施し，本市のデジタルデバイド対策に寄与

3. デジタルデバイド対策

宇都宮市 Utsunomiya City

▸多くの市民の皆様に行政のデジタルサービスの便利さを知っていただき，高齢者等のデジタルに不慣れな方にもご利用いただけるよう，令和6年8月1日から，新たに市役所本庁舎や地域行政機関（地区市民センター等）に「デジタル活用支援窓口」を開設

「デジタル活用支援窓口」での支援の流れ



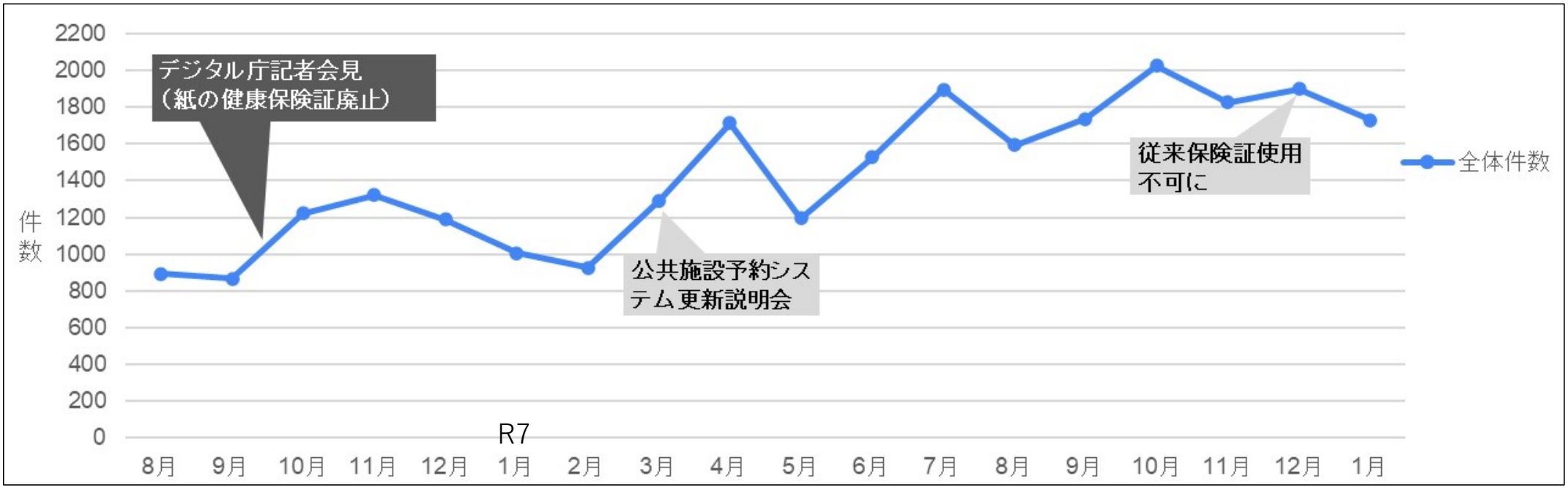
【支援内容】

「デジタル活用支援窓口」では，本市が提供する市公式LINE「教えてミヤリー」及び「教えてミヤリー」から利用できる行政のデジタルサービス，「書かない窓口システム」の利用案内に加え，本市やマイナポータルで利用可能な「行政手続きのオンライン申請」の支援のほか，それらの利用に関する基本的なスマートフォンの操作について支援をしています。

3. デジタルデバイド対策

宇都宮市 Utsunomiya City

○R6.8～　相談件数の推移



※行政のデジタルサービス導入時等に相談が増加する傾向が見られる。

⇒本庁舎などに設置したデジタル活用支援窓口において，支援員が本市のデジタルサービスをはじめとする公的サービス等に関する相談に対応し，行政のデジタルサービスの便利さを知ってもらい，利用を促進中！

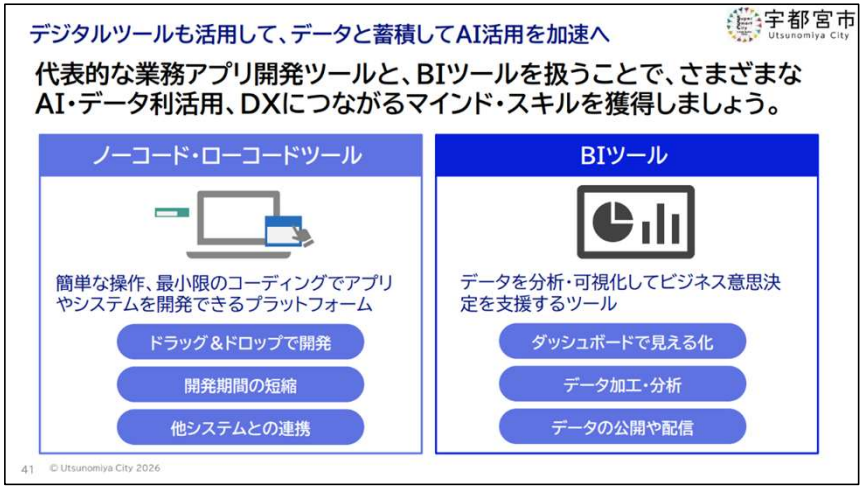
4. 企業向けセミナー

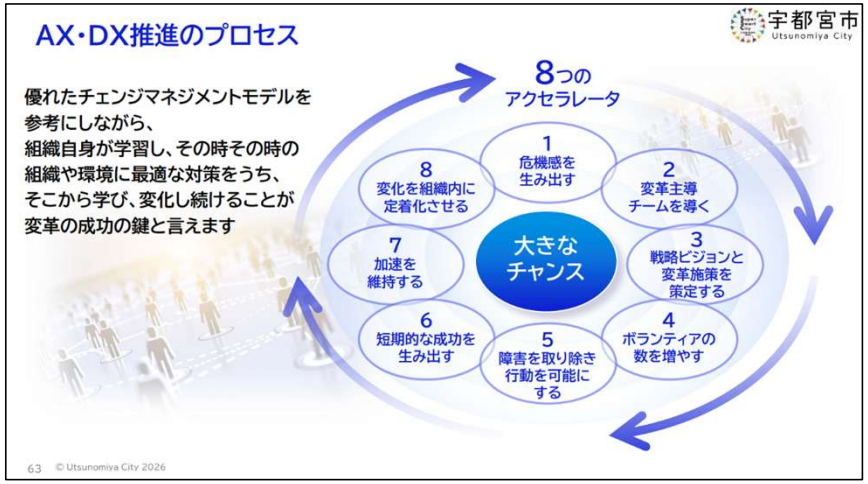
宇都宮市
Utsunomiya City

井出CDXO補佐官が市内のリーディング企業向けDXセミナーの講師を担当









4. 企業向けセミナー



当日は18社28名の方が参加

⇒これまでの様々な知見を生かして，地域の事業者におけるDX推進力強化への支援を実施中！

⑴報告事項
イ　令和8年度における取組のイメージ

DX実現タスクについて

宇都宮市 Utsunomiya City

- 行政DX特有の背景を踏まえ，「市民視点」×「行政視点」の両面から，サービス，手続・業務，人，環境の全ての要素におけるDX実現を目指し，8つの重点取組事項として整理し，各重点取組事項に市として取り組むデジタルの施策・事業を位置付けた。（令和5年2月に策定）

	市民視点（サービスデザインは市民視点で！）	行政視点（前例にとらわれず，柔軟・迅速に！）
サービス	**①スーパースマートシティ実現に向けたデジタルサービスの提供等（※）** 「スーパースマートシティ」の名にふさわしい、市民の暮らしを快適・便利にするデジタルサービスを提供します 地域共生社会／地域経済循環社会／脱炭素社会／NCC ※地域団体・事業者を対象とした支援も含む	
手続・業務	**②スマート窓口の実現** すべての市民が、意識することなく最適なデジタル技術を活用して、いつでも・どこでも・簡単に手続が完結する窓口を実現します	**⑤業務のデジタル変革** 紙文化からの完全脱却、規制の抜本見直し、デジタルのフル活用によりデジタルを前提とした業務の在り方への大転換を図ります
人	**③ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾃﾞﾊﾞｲﾄﾞ対策・ﾃﾞｼﾞﾀﾙ人材育成** 市民がデジタルリテラシーを身に着け、デジタルを活用できるようにすることや、市民が安心してデジタルサービスを利用できるようにします	**⑥庁内DX人材の育成・** 全職員のデジタルリテラシーを底上げし、専門性の育成・適正配置することで、DX組織の確立を目指
環境	**④デジタル社会基盤の強化** マイナンバーカードやデジタル地域通貨、新たな通信環境など、ハード・ソフトのデジタルインフラを広く普及させることで、本市のデジタル社会基盤を確固たるものとします	**⑦スマートワークの実** 執務環境を全面刷新し、デジタルを最大限に活用し でも職員の能力が最大限に発揮される環境を整備し

⑧データの利活用

「ビジョンの達成に向けたバックキャストの視点からの新たな取組と現状・課題に基づくフォアキャストの視点からの取組を掲げ，日々進展するデジタル技術を採用するため，毎年度見直し（ローリング）することとしている。

ビジョン	フォアキャストの取組	バックキャストの取組	R5	R6	R7	R8	R9
誰もが円滑に移動できる交通環境づくり	▲ＬＲＴ沿線まちづくりにおけるICT等の先進技術の活用 ▲シェアリングモビリティ推進事業 ▲交通ICカード「totra」のｻｰﾋﾞｽ拡大(ﾗｲﾄﾗｲﾝ、路線バス、地域内交通)	▼公共交通における自動運転技術の実装に向けた環境づくり	実装に向けた支援施策等の検討		実証⇒実装		
市民等の利便性や快適性が向上する都市基盤づくり	▲交通結節点におけるデジタルサイネージ等を活用した効果的な情報発信 ▲観光拠点や交通結節点へのWi-Fi環境の整備 ▲目指すべき都心部の将来像の共有に向けたＶＲの作成 ⇒▲ライトライン駅西側延伸を見据えたまちの将来像の市民理解促進に向けたVRの作成	－					
安全・安心に暮らすことができる都市基盤づくり	▲リモートセンシン ▲河川監視の強化 ⇒▲河川・道路監 ▲上下水道の効率 ▲溢水被害等への ▲災害やインフラ等 【完了】▲中継ポンプ場遠隔監視システムのモバ ▲施工管理業務等へのモバイル端末の実証導入 【新】▲画像解析技術等を用いたインフラ施設点検 ◇人工衛星を活用した管路情報の解析	【完了】▼人工衛星等を活用したインフラの管理 ―（⇒◇人工衛星を活用した管路情報の解析）― ▼AIカメラ等を活用した安全・安心なまちづくりに向けた実証 ▼デジタルツイン（３Ｄ都市モデル）を活用した防災シミュレーション	・人口衛星等を活用したインフラ管理の検討 ・AIカメラやデジタルツイン等の活用に係る各施策のスキームの検討		実証⇒実装		

黄色の網掛けは新年度からの新たな施策・事業

▲：フォアキャストの取組，▼：バックキャストの取組，
◇：バックキャストの視点から生まれたフォアキャストの取組

DX実現タスク更新のポイント

宇都宮市 Utsunomiya City

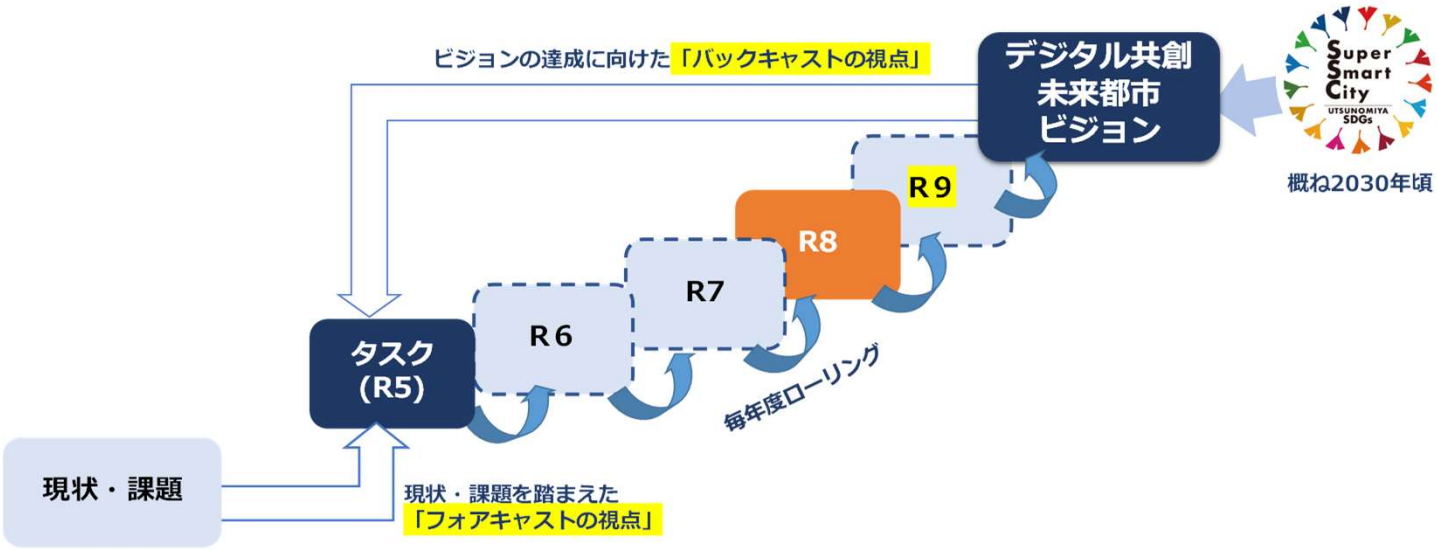
【取組の更新(ローリング)】

市民や事業者の皆様がデジタルの恩恵をより一層実感できるよう，先進技術や他自治体の事例を積極的に取り入れながら，取組をブラッシュアップします。

【取組のイメージ】

①AIエージェントの試行導入(予定)

②JR宇都宮駅西口周辺地区再編・整備における
市民・駅利用者等の理解促進に向けた3D・VRシュミレーション(予定)



①AIエージェントの試行導入（予定）

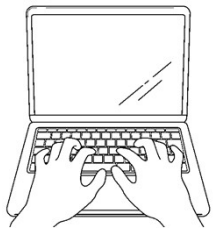
宇都宮市 Utsunomiya City

【AIエージェントとは？】

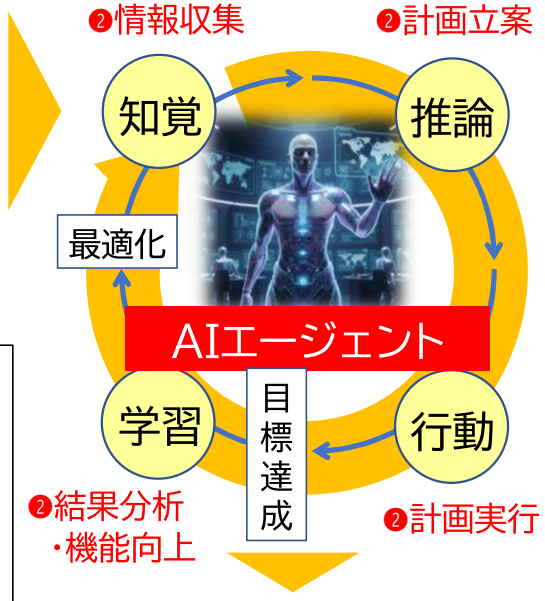
「AIエージェント」とは，ユーザーに代わって目標達成のために，最適な手段を自律的に選択してタスクを遂行するAI技術（目標達成のために複数のタスクを自律的に遂行）

⇒問い合わせ対応，各種確認・審査業務，議会答弁案作成など，情報の収集・整理・候補案の作成を伴う業務全般への応用可能性

【AIエージェントのイメージ】



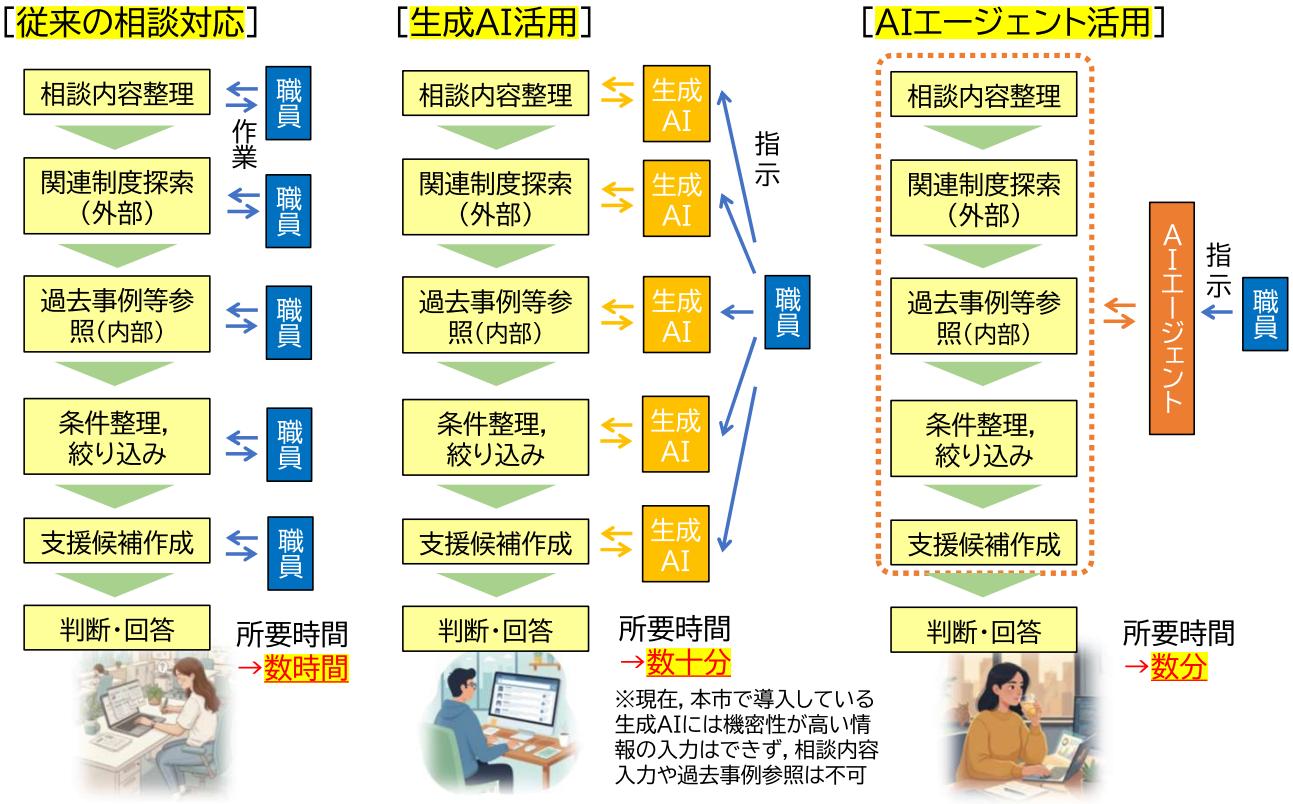
❶指示（目標）



❸タスク完了

※特徴
自律性，目標志向，自己修正，協調（複数のエージェントが協調して複雑なタスクを遂行），外部連携（外部のツールを呼び出し，多様な処理を実施）

【業務の大幅な効率化】→AIエージェントでは調査テーマを指示するのみ

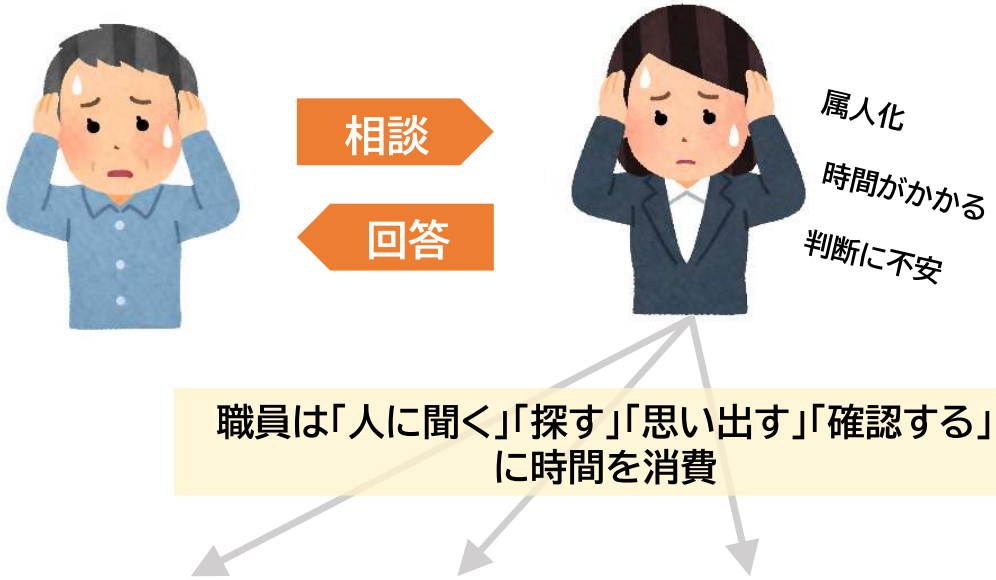


①AIエージェントの試行導入（予定）

活用のイメージ

【Before】

×分散した情報を職員が個別に探し回る必要がある



【After】

◎相談内容を入力するだけでAIが必要な情報を横断的に整理・提示



②3D・VRシミュレーション（予定）



▲JR宇都宮駅西口周辺地区の将来イメージ



▲駅前広場（1F）の基本平面図（案）

【駅前広場整備イメージの可視化】

- 施工箇所・内容・時期に合わせて，歩行者・バス・タクシー・一般車などの動線をわかりやすく表示
- VR等を使い，段階的な整備イメージを立体的に見える化

⇒市民・駅利用者が変化を理解しやすい環境を提供

（2）
宇都宮市デジタル共創未来都市ビジョンの実現に向けた意見交換

本日の意見交換のテーマについて

宇都宮市 Utsunomiya City

➢ ご所属の団体に関連深いものに関する今後の取組や課題についてのご発言をいただきたい。

【意見交換のテーマの例】

①高齢者や情報弱者へのデジタル活用支援	②DX人材育成	③AIの利活用	④課題解決に向けたシステムツールの導入	⑤その他

- ご所属の団体に関連深いものに関する今後の取組や課題についてご発言をいただきたい。

■ いただいたご意見・意見交換の結果の取扱いについて

- 「宇都宮市デジタル共創未来都市ビジョン」への参考とさせていただきます。
- 本懇談会の議事録作成に当たって，ご意見内容や発言者名の記載可否を事前に確認させていただき，了承を得た範囲で市ホームページ等に公開します。